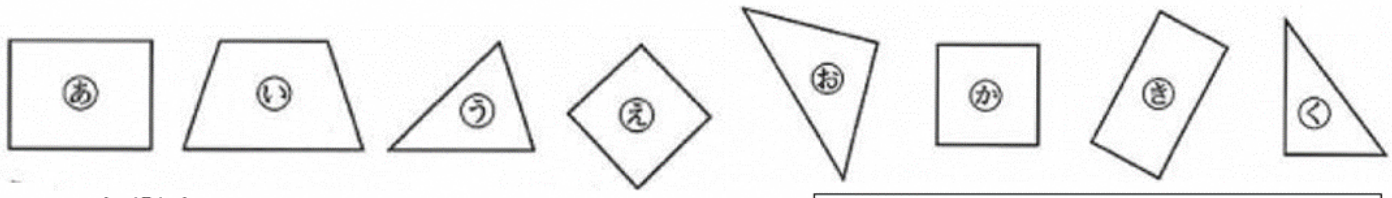
1　下の　形を　みて　あいう・・・　で　答えましょう。



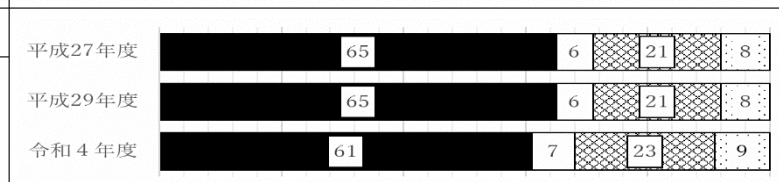
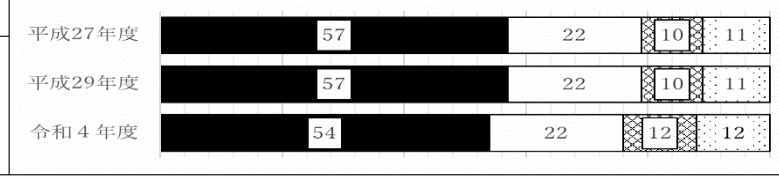
(1)　正方形を　ぜんぶ　かきましょう。

(2)　長方形を　ぜんぶ　かきましょう。

(3)　直角三角形を　ぜんぶ　かきましょう。

(4)　直角が　１つもない　形を　ぜんぶ　かきましょう。

(1)	え　か
(2)	あ　き
(3)	お　く
(4)	い　う

問題		評価基準及び割合（%）　※割合は、アルファベット順とする。				
1	（1）	A	B	C1	C2	
		完答	か のみ	あを 含む	左記以外の 誤答・無答	
	（2）	A	B1	B2	C1	C2
		完答	あ のみ	き のみ	いを 含む	左記以外の 誤答・無答
	（3）	A	B	C1	C2	
		完答	く のみ	うを 含む	左記以外の 誤答・無答	
	（4）	A	B	C1	C2	
		完答	いまたは うのみ	えやおや きを含む	左記以外の 誤答・無答	

1　辺の長さや角の大きさに着目して、図形を弁別することができるかをみる問題である。誤答に目を向けると、（3）の㋄を含んだ誤答は23%、（4）の㋑または㋄のみの誤答が22%だった。加えて正答率では、（4）の直角がない図形を選べるかをみる問題の正答率が54%と一番低い。これらから、直角と判断する力が十分でないことが考えられる。問題１のような様々な向きの図形や直角に近い形の中から角の大きさに着目して図形を弁別する活動では、見た目で判断するのではなく、実際に三角定規や物差しを当てて、直角や辺の長さを確かめる態度を育てることが大切であると考える。そのために、以下のような活動が考えられる。

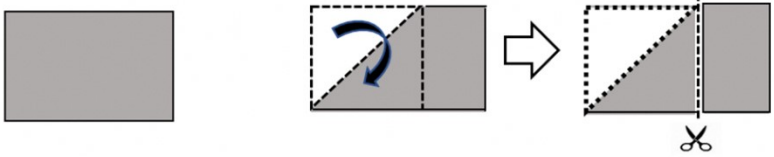
①三角形やほかの図形の中から「直角三角形」を弁別させる。この場合、できるだけいろいろな位置に置かれた「直角三角形」を示し、向きや大きさに関係なく直角に着目して判断することができるようにしたい。あわせて、実際に三角定規の直角を重ねて、直角かどうか調べるようにさせる。

②身の回りから、角の形が直角であるものを見付けたり、紙を折って直角を作ったり、直角三角形を使った模様づくりをしたりするなどの体験的な活動を通して、直角の意味理解を一層深める。

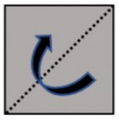
③②のような体験的な活動を行う中で、自分の考えを伝える場面を設定する。図形の構成要素に着目して、角が直角になる理由を説明することで、根拠を明らかにして図形を弁別できるようにさせる。

2　つぎの　①から④を　よんで　答えましょう。

①　長方形の　かみが　あります。　②　ずのように　かみを　おって　きります。



③　そして　かみを　ひらくと　べつの　四角形が　できました。



④　べつの　むきで　もう１ど　おります。　すると　へんと　へんが　ぴったり　かさなりました。

できた　四角形には　どんな　とくちょうが　ありますか。あてはまるものを　ぜんぶ　えらんで　○を　つけましょう。

（　　）あ　２つの　へんだけ　長さが　おなじに　なる。
（○）い　４つの　へんの　長さが　すべて　おなじに　なる。
（　　）う　２つの　かどだけ　直角に　なる。
（○）え　４つの　かどが　すべて　直角に　なる。

問題	評価基準及び割合（%）　※割合は、アルファベット順とする。			
2	A	B	C	☆令和４年度
	完答	いまたはえ	左記以外の誤答・無答	57 / 12 / 31

【年度の横の記号は、☆：この年度より新設した問題】

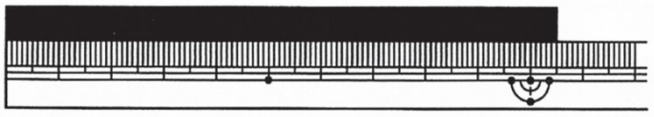
2　正方形の構成要素を正しく理解して弁別することができるかをみる問題である。誤答・無答が31%いることから、数学的活動を通し、図形を構成する要素に着目して捉えることができていないと考えられる。このような場合には、問題のような長方形の紙を折って正方形を作る以外にも、適当な紙の四カ所を直角に折って長方形を作ったり、格子状に並んだ点を結んで、正方形や長方形、直角三角形をかいたりする活動が有効であると考えられる。また、辺の長さや角の有無等の条件に基づいて図形を弁別するために、辺や頂点、面、角といった図形を構成する要素に着目することが大切である。日常にある図形を捉える際にも、全体を見て概形を捉えた後に図形を構成する各要素に着目して思考・判断する態度を育成していきたい。

3　□に　あてはまる　数を　かきましょう。

(1)　１Lは　1dLを［１０］こ　あつめた　かさ　です。
(2)　1cmは　1mmを［１０］こ　あつめた　長さ　です。
(3)　１Lは　1mLを［１０００］こ　あつめた　かさ　です。

4　黒い　テープの　長さは　何　cm　何　mm　ですか。
※下の　絵の　ものさしの　目もりを　読んで　答えましょう。

１０　cm　５　mm



問題		評価基準及び割合（%）　※割合は、アルファベット順とする。		
3	（1）	A	C	☆令和４年度
		正答	誤答・無答	74 / 26
	（2）	A	C	☆令和４年度
		正答	誤答・無答	76 / 24
	（3）	A	C	☆令和４年度
		正答	誤答・無答	54 / 46
4		A	C	平成27年度
		正答	誤答・無答	80 / 20
				平成29年度
				81 / 19
				令和４年度
				68 / 32

【年度の横の記号は、☆：この年度より新設した問題】

3　長さやかさの単位の関係を理解して、単位換算ができるかをみる問題である。正答率は、（1）74%（2）76%（3）54%であった。単位の関係の理解は、1Lや1㎝に満たない端下のかさや長さを表す際に、10等分した1つ分をより小さい単位を用いて表すことで深まっていく。単位の関係の理解をさらに深めるために、以下を提案したい。

かさの量感を養うには、日常生活でよく目にする牛乳パックや水筒の量などの身近な物のかさの予想と実測から興味関心を引き出す。例えば、給食の牛乳パック(200mL)を5日分注ぐと1L の牛乳パック1本分になることを測定することで、量感を養っていく。1mL を10回注ぐと10mL、10mL を10回注ぐと100mL(1dL)、100mL(1dL)を10回注ぐと1000mL(1L)になることを児童自身で測定することで、mL と dL、L との関係をより深く理解させたい。

また、児童が予測と実測を繰り返したくなるようにするために、急須や鍋など、いろいろなかさの入れ物と水道の蛇口がたくさんある家庭科室や理科室などで活動を行う。1dL や1L のかさを基準にして根拠をもちながら予測し、予測に合ったますを選択して実測を繰り返すことで、誤差を認識して縮めていく活動を通して量感を豊かにしていきたい。

4　長さの普遍単位 cm と mm の関係1cm＝10mm を理解し、物差しの目盛りを正しく読むことができるかをみる問題である。正答率は68%で、前回の調査時より13ポイントも下がっている。

誤答の原因としては、上位単位cmと下位単位mmの単位の関係「1cmは1mmが10こ分」という理解が不十分であることが考えられる。数値を表していない物差しの目盛りを読み取って数に表す機会が少なくなっていることも考えられることから、10cmの目盛りを起点に5mmの目盛りを読み取るなど、数値を予想しながら物の長さを測る活動を行い、目盛りを読み取る活動をさらに積み重ねていくことが大切である。

そのため、指導において以下の2点に留意する必要がある。

① ペア活動やグループ活動で身近なものの長さを物差しで実際に測定し、測定の妥当性を確かめさせるなど、1cm＝10mmという単位の関係を体験的に理解させること。併せて、意図的に他の学習でも、長さを測定する場面を随所に設定して物差しの測定技能の定着を図ること。その際、児童が持っている定規ではなく、学校にある物差しで測定させることに留意する。

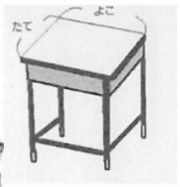
② 十進位取り記数法で 10 のまとまりをつくって上位単位とする考え方との類似点から、児童が 1cm＝10mm という単位の関係を想起できるようにすること。

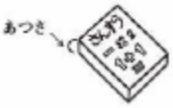
5　つぎの　長さや　かさは　どのくらいでしょうか。
答えを（　　）の中から　えらんで○で　かこみましょう。

(1)　教室で　つかっている　つくえの　たての　長さ
（10 cm　20 cm　(40 cm)）

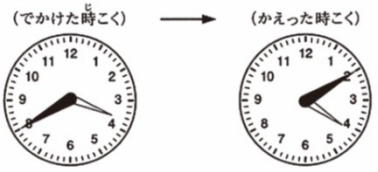
(2)　教科書の　あつさ
（(5 mm)　25 mm　5 cm）

(3)　給食に　でる　ぎゅうにゅうの　かさ
（20 L　2 L　(200 mL)）





6　まりえさんは　おつかいに　行きました。



(1)　でかけた　時こくは　何時何分でしょう。

(2)　でかけてから　かえってくるまでに
かかった時間は　どれだけでしょう。

3時40分

30分間

問題		評価基準及び割合（%）　※割合は、アルファベット順とする。				
5	(1)	A	C			平成27年度 75 25 平成29年度 81 19 令和4年度 67 33
		正答	誤答・無答			
	(2)	A	C			平成27年度 74 26 平成29年度 75 25 令和4年度 69 31
		正答	誤答・無答			
	(3)	A	C			平成27年度 74 26 平成29年度 75 25 令和4年度 72 28
		正答	誤答・無答			
6	(1)	A	C1	C2	C3	平成27年度 92 2 1 5 平成29年度 92 2 1 5 令和4年度 89 2 1 8
		正答	4時40分	8時18分	左記以外の誤答・無答	

問題		評価基準及び割合（%）　※割合は、アルファベット順とする。			
		A	C1	C2	
6	（2）	正答	4時10分 4時間10分	左記以外の 誤答・無答	平成27年度 69 8 23 平成29年度 69 8 24 令和4年度 65 8 27

5　長さやかさの量感が身に付いているかをみる問題である。正答率は、（1）67%（2）69%（3）72%で、前回のH29の調査に比べて、長さの量感をみる問題（1）と（2）では、（1）が14ポイント減、（2）が6ポイント減、（3）のかさの量感をみる問題が3ポイント減と、いずれも大幅に減少している。コロナ禍の感染症対策等で実測活動を取り入れにくかったことが原因の一つであると考えられる。量感を養う上で、実測活動は大変重要であるため、以下を提案したい。長さやかさの量感を養うには、いろいろなものの長さやかさを予想してから実際に測る活動が効果的である。長さでは、10cmを基準として指や手、紙テープで長さを作る活動を通して量感を身に付けさせ、予測と実測を繰り返す量感を養う数学的活動を取り入れていく。10cmの基準の量感を用いて予測の根拠をたて、ものさしを使って繰り返し実際の長さを確かめる活動をすることで誤差を縮めていき、量感を豊かなものにしていく。かさでは、1Lの量感を基にして、いろいろな入れ物のかさの予想と実測を繰り返す。身近なものを想起して予想の根拠を明確にし、「○Lよりは多そう。」「○Lよりは多いけど、○Lよりは少なそう。」など、具体的に予想してから実測することで、量感を豊かなものにしていきたい。

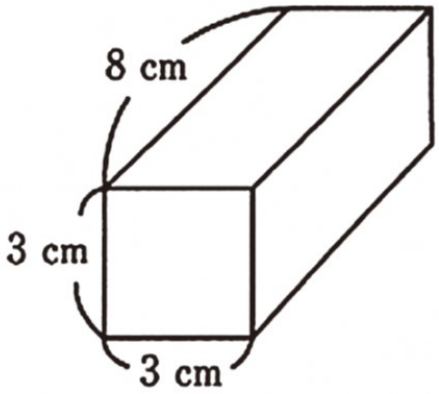
6　時刻を読みとって、簡単な時間を求めることができるかをみる問題である。（1）の正答率は89%で、（2）の正答率は65%だった。（1）の正答率が89%である反面、（2）は70%に満たない結果となっている。これは、時刻を読み取ることはできても、簡単な時間の計算を解くことが難しい児童がいることがわかる。そこで、以下のことに気を付けて、指導を重ねていきたい。

① 時刻と時間の違いを丁寧に指導する。時間は、時刻と時刻の間であることから、「何分間」と正確に表示して指導する。また、他の教科の学習時間においても問いかけるなどして、指導を積み重ねていく。

② 数直線や時計の模型などを使い、時間の計算の仕方について、丁寧に指導する。

7　竹ひごと　ねんど玉を　つかって　右のような
はこの形を　つくろうと　おもいます。
3cmの　竹ひごと　8cmの　竹ひごを
何本ずつ　用意すれば　よいでしょう。

3cmの　竹ひご	8本
8cmの　竹ひご	4本



問題		評価基準及び割合（%）　※割合は、アルファベット順とする。			
		A	B	C1	C2
7		完答	3cmが4本 8cmが4本	3cmが6本 8cmが3本	左記以外の 誤答・無答

平成27年度 70 14 1 15
平成29年度 71 14 1 14
令和4年度 67 13 1 19

7　箱を構成する辺の数を筋道立てて考えることができるかをみる問題である。正答率は67%で、前回の数値より若干の減少がある。誤答では、「3cmが4本、8cmが4本」が13%、そのほかの誤答が20%であった。以下の点に注意して指導を積み重ねていきたい。

① 箱を構成する際に必要な辺や頂点の数を確認してから直方体や立方体を作らせる。

② 予想した辺や頂点の数と、実際の数を比べ、本当に必要な辺と頂点の数を把握する。

③ 様々な立方体や直方体にふれさせ、学んだことの定着を図る。